

第3回東大阪市上下水道事業経営審議会 会議録

- ◆日 時 令和3年11月8日(月) 13:30～15:00
- ◆場 所 東大阪市上下水道局 水道庁舎2階 第1会議室

◆次 第

- 1 開会
- 2 会議の公開及び傍聴者の入場
- 3 委員および出席者の紹介
- 4 議事
 - (案件1) 令和2年度東大阪市水道事業会計決算報告
 - (案件2) 令和2年度東大阪市下水道事業会計決算報告
 - (案件3) 水道ビジョンの次年度以降の進行管理
 - (案件4) 下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理

- 5 閉会

◆出席者

- 資料-1 出席者名簿 参照

◆配布資料

- 資料-1 出席者名簿
- 資料-2 令和2年度水道事業会計決算説明
- 資料-3 令和2年度下水道事業会計決算説明
- 資料-4 水道ビジョンの次年度以降の進行管理
- 資料-5 下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理

◆会議録

1 開会

○ 開会

これより第3回東大阪市上下水道事業経営審議会を始めます。

○ 資料確認

資料は、

資料－1 出席者名簿

資料－2 令和2年度水道事業会計決算説明

資料－3 令和2年度下水道事業会計決算説明

資料－4 水道ビジョンの次年度以降の進行管理

資料－5 下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理
です。

2 会議の公開及び傍聴者の入場について

○ 傍聴者の入場

本審議会の会議につきましては、審議会規程第6条第3項に基づき原則公開することとしておりますが、本日傍聴人の受付はございませんでしたことをご報告させていただきます。

○ 会議の公開について

本審議会につきましては、議事録作成のため、録音させていただき、また、作成した議事録は皆さまにご確認いただいた後、個人名を伏せた状態で市ホームページに公開させていただきます。

3 委員及び出席者の紹介

(庶務より、資料1に記載した理事者(本会議から新たに出席した理事者のみ)の所属・役職、氏名を紹介)

4 議事

(案件1) 令和2年度東大阪市水道事業会計決算報告

(庶務より、資料－2「令和2年度水道事業会計決算説明」の内容について説明)

○ 質疑応答

【委員】

資料 16 ページで給水原価と供給単価の説明をいただいたのですが、令和 2 年度の供給単価が下がったのは減免をしたからですとのご説明ですが、一般会計からの補助金をもらって 151 円になるということで、151 円でも過年度と比べると低いような感じがします。一般会計からの補助金で全部が補填できなかったというイメージでよろしいでしょうか。

【庶務】

昨年度はやはりコロナ禍の影響もありまして、緊急事態宣言もあり一般の飲食店とかお店が閉まるような状況がありまして、東大阪では家事用のほかに業務用や事業用など業者さん向けの用途の売り上げがあるのですが、そこが落ち込みまして、逆に家事用は巣ごもり需要もありまして増えました。家庭用のほうは供給単価が安い状況なのですが、逆に事業用や業務用の水量 1 m³あたりの販売価格は高めに設定されています。ですので、利益率の高いものが、売れば売れるほど水道事業としてもうかるものの水量が減ったのですが、利益率の高いほうが減り家事用が多く増えた結果として、平均販売価格が下がったということで、例年よりも供給単価が減ったということです。

【委員】

用途別の構成の変化が効いているということですね。

【庶務】

そうであります。

(案件 2) 令和 2 年度東大阪市下水道事業会計決算報告

(庶務より、資料-3「令和 2 年度下水道事業会計決算説明」の内容について説明)

○ 質疑応答

【副会長】

21 枚目のスライドの 3 番目の不透明な先行きということで、1 番目に国の厳しい財政事情によって補助金の減額の可能性があると書いているんですけど、これは汚水事業の関係で減額されるという見通しがあるのでしょうか。雨水事業だけであれば一般財源だけの話になるのでしょうか。

【庶務】

現時点で下水道事業で国庫補助金をいただいている事業のほとんどが雨水事業の工事に対してになります。なので、ここで申し上げているのは雨水対策事業に関する補助金が対象になっており、主に一般財源の事業ということになります。

(案件3) 水道ビジョンの次年度以降の進行管理

(庶務より、**資料-4**「水道ビジョンの次年度以降の進行管理」の内容について説明)

○ 質疑応答

【委員】

4頁の進行管理の考え方で、10月～1月の次年度予算編成作業は、進捗評価を確定後、反映させるのですか。取組の策定に反映させるのは分かりますが、予算に反映させるとまで言っているものなのか、大変なことにならないでしょうか。例えば、(令和2年度の)有収率が決算書を見ると0.6%落ちている、これはビジョンでは95%に上げていくことになっていますが、(令和元年度の)94.6%から(令和2年度は)94%に落ちています。落ちているということは、例えば原因が漏水だとしたら、漏水対策にもっとお金をかけないといけないという話になってしまうかと思います。

予算に反映させるとすると、目標を(95%に)上げると言っている以上、少なくとも0.6%落ちている分は、予算に反映させる修繕工事をしなければなりません。更新事業計画もあると思いますので、予算に反映させてそこまでできるのかというところが気になります。計画を見直す話かと思いましたが、予算にまで反映するとなると、大変ではないでしょうか。

【庶務】

ここでの予算編成作業は取組に対して(内部)評価をし、その評価をもって、できているもの、できていないものを含めて、何の課題があったのかをしっかりとめたものを、審議会の場で皆様にご意見等をいただくという流れになっています。計画を達成できなかったものに対しては、その問題について、例えば予算をつけていかなければならないと思います。そういう意味では、取組については予算を伴う取組も多数ございますので、予算編成作業についても評価を反映させていきたいと考えております。

【委員】

分られましたか。

【会長】

仰ってるのは、チェックを行って、例えばできないとなるとプランの方を触るのに、予算の方まで上げて大丈夫なのかということですよね。今の話だと予算の配分の方にも見直しが必要だというような受け止め方でしたけれども、それでよろしいですか。

【庶務】

予算も財政計画を立てておりますので、(計画)内容につきまして、課題について変化している部分は毎年度進行管理によって適宜見直しをかけていくことになると思います。

【会長】

予算請求額に反映させていくということですよ。

【委員】

例えばの話で申し上げた、有収率が落ちているという話ですが、更新計画や漏水修繕は、継続して進められていると思います。思わぬところで漏水が増えた、という話だと思いますし、更新計画は簡単には変えられないと思います。できることから予算に反映させていくという意味かと思いましたが、そのような感じでしょうか。

【庶務】

課題、問題点を整理したうえで、予算に反映させていくということです。

【委員】

全部予算に反映できるものではないと思います。一部は取組の見直し、(進行管理の流れの中の)3月の「次年度の取組策定」に反映させるのではないのでしょうか。

【会長】

計画に反映させれば、その後に下りてくるのは取組ですから、計画の変更或いは計画に反映されたものが取組で、取り組んでそれをチェックして、それがまだできていなければ計画から少し練り直すのが、PDCAサイクルの根本にあるものですよね。そのような流れ、通常の進行の流れでよろしいですね。

【庶務】

その通りです。

【委員】

計画は立てるが、大規模な修繕工事があったときは借金をすれば良いというのが根底にあるのではないかと思ってしまう。(純利益が) 2億300万円と仰るけれど(企業債の)返済に10億円払うわけだから、私達が判断するような確な会計の内容ではないと思わざるを得ない。

【会長】

何か起こったら、すぐ企業債を発行するのではないか、というご意見かと思いますが、どうですか。

【理事】

企業債残高についても目標値を設定しておりますので、そこは(企業債発行額を)きっちりと決めさせていただきます。

【会長】

企業債もちろん活用しながら、でも企業債は借金ですので、借金はなるべく膨らまないように。先ほどPDCAサイクルの説明がありましたが、計画を立てて実施して、ちゃんと実施できているかどうかをチェックして、もし実施できていなかった場合は計画に戻るというサイクルの中で、それぞれ不備があった部分に関しては、なぜそこに不備があったのか、もっと効率的にやる方法はなかったのかということを考えていく。それでも(事業が)回らないというときに、最終的にお金が足りないという話になると思いますが、まずは無駄がないか、無駄をとにかく削るということ、必要以上に工期をかけない等色々あると思います。それを行うことによって、まずはコストカットをしていくのは、どこの自治体でも同じですね。それでもどうしても賄いきれないもの、或いは災害が絡んできて人命を守るためには企業債を発行しなくてはいけない、というような施策的な正当性があるときは、企業債の発行もあるかと思いますが、まずは支出を抑える、効率的にやるにはどうすれば良いかを考えるというのが、PDCAサイクルを回すというところです。まずは、ここにおられる方々が、無駄を省きながら精いっぱい行政、施策の効率化に努めることが、ここに書かれていると考えます。

【委員】

これだけ地震など色々な問題が起きているなかで、想定外ということはあると思います。水道事業は(水道管布設等が)借金から始まるというのがおかしな建前だなどと思います。

【会長】

まず水道事業と下水道事業というのは、特に東大阪市の場合は大きく違ってきます。東大阪市は非常に低位置にあるので、浸水しやすいです。そうすると、他の地方自治体に比べると大きな下水道管が入っています。ですので、他の自治体と比べられないところがあります。そのときに、想定外は確かにあると思います。私達は、色々な災害を想定して準備をすることはできますが、準備をしているからいつでもOKということにはならないのが災害です。お分かりですか。

【委員】

分かりますが、まだピンときていない部分があります。耐用年数を目途に更新していると思いますが、耐用年数をオーバーした水道管もあります。大阪府で一番古い水道管が80年ということを知りましたが、そこは盤石な土地で振動も少ない土地であったと聞きました。地盤の関係など色々な要因がある中で、東大阪市は更新されていない管もまだ多くあり、今後も借金をしなければならないので、私達は（水道料金を）もっと払わなければいけないと思います。水道は、使っている割に安いので。想定外の事態が起こっても断水しないで、無事に飲めるような状態にしてもらいたいと思います。このことから、（水道料金を）もっと上げなくてはいけないのではないかなと思うし、このままでは負債は減らないと思います。

【会長】

もっと水道料金、下水道使用料を上げなさいということですね。

【委員】

水道料金は、使っている分はちゃんと払うべきだと思います。安い方が良いに決まっていますが、負債は減らさないといけません。

【会長】

負債を増やさずに（水道）料金をもっと上げたらどうかというご意見ですが、いかがですか。東大阪市のビジョンや方針にも関わってくると思いますが。

【副会長】

水道料金の改定について、本会議で議論していますが、その中の大きな柱の一つが原価と料金のバランスを、今ギャップがあるのを（均衡になるように）図る方向で議論がなされているというのは、住民の方へ負担を強いるような話だと思います。ただでさえ、収益のバランスをとって、給水原価と供給単価が逆転しているところを元に戻さなければいけないのに加えて、基本料金や従量料金のバランスについても同時に

進めようとする、小口の方に対する料金の上げ幅はかなり大きくなる（料金）改定かと思います。それを敢えてしようとしているということは、健全経営に向けて舵を切っている一歩なのかなと思います。他の事業体では、給水収益が下がっていつから、このようなことをやり出すので、並行して進めることは厳しいと思いますが、（東大阪市は）厳しいことをしようとしている印象を受けます。

【委員】

水道をたくさん使いながら、東大阪市は水道料金が高いと言う市民の方もいます。外国へ行ったら水道は飲めないです。日本人は水道のありがたみを分かっていない部分があるので、もっと意識を高めてもらう必要があるのではないかと思います。

【委員】

資料4の別紙で、KPIの21項目は水道ビジョンの中でも掲げられているのですが、施策毎に見ていくとバランスがよろしくなくて、KPIが当てはまらない施策があります。重点施策でもKPIが一切該当していないところがあるので、進捗管理をしようと思うと、重点施策は客観的な指標があった方がより分かりやすく説明ができるのかなと思います。補助的なKPIでも結構ですので、せめて重点施策には何かしらの管理指標みたいなものを検討いただいた方が、後から進捗具合を確認するときに非常に活用できるのかなと思います。

【会長】

その点に関しては、私の方からもお願いをしたいところです。特に管理指標が活躍するのはチェックするときと、目標を立てるときです。目標を立てたとき、実際に事業を行ったとき、そして結果をチェックするときに、何らかの指標というのは必要になってくると思いますので。今の地方自治体経営では、数値化できるものはなるべく数値化することが潮流となっていますので、できるものに関しては再検討をお願いしたい。あと、数値化した場合、1%達成したものでも99%達成したものでも△で表しているというのは、幅を持たせ過ぎかという印象がありますので、○×△で表すのは簡単ですが、実際に改善活動を行うときに、少し情報量が足りないかなと思います。管理指標の件と含めて、再度検討してください。

【庶務】

次年度に向けて再度検討します。

【副会長】

スライドの12枚目、KPIの話になりますが、東大阪市の結果を他と比較する比較

対象として、類似平均はわかるのですが、もう一つ大阪平均とあるのは、大阪平均と比較しようと決めているということですか。

【庶務】

大阪府下平均を出すことは可能ですので、府下平均にしようと考えています。

【副会長】

大阪府と言っても、北の端から南の端まで状況の違うところ、また大阪市のような（規模の大きな）ところもあって、東大阪市が大阪府の平均と比較して勝っているからいいという判断で良いのでしょうか。もう少し近隣の似たような事業体と比較した方が良い感じがします。どこを比較対象にするかは、また検討してもらえれば良いかと思えます。

【庶務】

類似平均は、全国の事業体の中で状況が似た事業体ということになりますが、地域性を見るということで、大阪平均との比較を記載していました。

【副会長】

八尾市など、もう少し隣接している事業体でも良いかと思いました。

【庶務】

参考にさせていただきます。

【会長】

他に質問がないようでしたら、水道ビジョンの次年度以降の進行管理につきましては、先ほどの庶務からの説明のとおり、水道ビジョンの実行計画である中期実施計画により進行管理を行います。中期実施計画に掲げる 71 の各取組に対するフォローアップは、局内での進捗評価の報告を本審議会を受けて、委員の皆さんにご意見を述べていただくことで、進捗評価の確定と次年度の取組に反映するものとします。経営審議会でのご意見を通して、水道ビジョンをより実効性の高い計画とし、事業環境の変化に柔軟に対応できる体制づくりに努めてもらいたいと思えます。

（案件 4）下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理

（庶務より、**資料-5**「下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理」の内容について説明）

○ 質疑応答

【委員】

確認だけですけども、6ページ目にPDCA記入例を書いています。数字で表現されない場合のDo（実施）がどういうイメージかということですが、例えば7ページのPlan（計画）ではインターネットを利用した活動を検討するという目標に対して、検討したとか検討しなかったとか単純な内容を書かれるということでしょうか。基本的には定性的な言い回しの文言が入るということでしょうか。

【庶務】

具体的な記入内容は来年の3月以降になりますが、実際に検討した内容であったり、これは次年度以降も引き続き検討します、これは検討しなくていいといったことのような（定性的な）文言になります。

【会長】

（定量的、定性的問わず）実際に行われたことを書かれるということですね。計画があって、それに基づいて実際に行ったことを書いて、それができているかできていないかをチェックして、何故できなかったのかを改善案に盛り込んでプランを練り直すという動きになるということですね。

それでは、下水道経営戦略の次年度以降の進行管理につきましては、先ほどの庶務からの説明の通り、取り巻く環境が絶え間なく変化している状況の中で、下水道経営戦略が現状に即した計画であり続けるために、常に時点修正を行いながら進行管理を行います。34の各取組に対するフォローアップは、水道ビジョンの次年度以降の進行管理と同様の流れで行い、経営審議会でのご意見を通して、下水道経営戦略をより現状に即した実効性の高い計画としてもらいたいと思います。

最後に、今後の日程について庶務からの説明をお願いします。

（庶務より、今後のスケジュールについて説明）

5 閉会